

2019年10月20日(日)	国崎	ウタセ真鯛	功成丸	ツレと
小潮:旧9/22	干潮	03:08(49cm)	満潮	10:01(175cm)
自分	マダイ		アベレージ30cm	11尾
ツレ	マダイ	44・37・36cm各1尾	アベレージ30cm	3尾
			ウマズラハギ	35cm1尾

4時30分	現地着	10時01分	満潮 (鳥羽175cm)
5時30分	出船	11時20分	沖上がり

【料金】 乗り合い 12,000円 氷付き 釣り座は抽選
10月より消費税アップに伴い「仕掛け付き」がなくなった。

【仕掛け】 電動リール 竿受け エビ用網 錘 30号～60号

※魚を絞めるため、‘かんこ’から魚をすくうためのタモとゴム手袋を持参

竿 ウタセ真鯛用(自分) マダイ用竿(ツレ)

自作仕掛け

ハリス5号175cm 幹糸5号 枝間2m 伊勢尼12号3本鉤 捨て糸3号50cm

仕掛けはサービスと思っていたが、自作仕掛けも準備していた。

ハリスは一ヒロと約20cmで取ったので175cmとなった。

※仕掛けのサービスがなくなったことから、船長にハリスの長さを聞いた。「タテ釣りでは10cmのハリスに喰ってくるのだから短くて良い。ハリス100cmで十分だろう。枝間は150cm。」とのこと。しかし、以前のサービス仕掛けは、ハリス150cmだった。

以前のサービスの仕掛け：ハリス5号150cm 幹糸6号 伊勢尼12号 3本鉤

【様子】

- 早くから予約しておいた。
- 天気は晴れ、風が強かった。予報では風速7mだった。白波が立っている。船がかなり上下する。
- 以前、酔い止めを飲むのが遅くて酔ったことがあることから、今日は午前3時30分に酔い止めを飲んだ。まったく酔わなかった。
- 残りくじを引いた。3番くじだった。「酔うから胴に入りたい。」と船長に言ったら、左舷で後ろから3人目4人目のところとなった。4人目のところは、操舵席の横である。胴に入ったことも酔わなかった一因であるかもしれない。3人目のところに自分が、4人目のところにツレが座った。
- 仕掛けは船から遠くなる方に流れた。船長の読み通りなのだろう。ネットの予報では、北西の風、上げ潮である。自分の予想では右舷に入った方がよいと思っていたのだが…。1番くじを引いたグループも左舷の一番後と二番目に入っていた。
- 「錘は40号か50号」とアナウンスがあった。40号をセットした。水深は43mだった。
- 一投目から左隣の人が釣り上げた。急いで投入した。ところが、裏の人とお祭り。仕掛けはクチャクチャだ。朝の良い時間帯に最悪だ。絡んだ人に「これしか仕掛けがないが、船で買うから自分の仕掛けを切ってください。」と言った。そこへ船長が来て「待て待て。」と言って解いてくれた。助かった。この後も何度かお祭りをするが、船長が解いてくれた。
- 気持ちを直して、投入。底まで落とす。ツレが釣った。底で釣ったとのこと。自分も釣った。底だった。餌取りはいるものの、釣れるのは底である。
- やがて、ツレが44cmを釣った。自分が釣るのは小ぶりで、ツレの方が大きい。

- ツレは、錘が底を叩かないように、錘を底から1m上げて釣ったとのこと。
- なかなか当たりがない。3尾しか釣っていなかった。ツレは5尾だった。まだ、時間は十分にあるが、釣れる気がしない。今日は5～6尾かなという感じだった。
- 仕掛けが船から遠ざかる向きに出ているので、錘を軽くして‘おぼせ釣法’ができると考え、とりあえず30号に変えた。錘を変えてすぐに移動となった。9時30分ごろだった。
- 移動してから入れ掛かりとなった。
- 水深は50mだった。このまま30号でやることにした。
- おぼせ釣法をやろうとしたが、ほんのわずかに流れるだけ。錘は転がらない。ふけさせる糸の量を少なくしたり、出し過ぎたときにはふけた糸を取ったりした。これで入れ掛かりとなった。
- 餌チェックで巻き上げに喰ってくることもあった。
- 移動してから8枚釣った。
- 巻き上げで喰ったとき、下の鉤に小さなヒラメが掛かっていた。上の鉤が自分の背中に掛かってしまい外していたら、ヒラメがいなくなっていた。残念。
- 10時頃、「上潮は動くが、底はまったく動かない。」とアナウンスがあった。ここから当たりが止まった。当たっていたときは、わずかだが潮が動いていたのだろう。鳥羽では10:01満潮で潮止まりだった。
- 9時30分から10時ごろが入れ掛かりタイムだった。この間、ツレはウマズラハギを釣っただけで当りは数回あったが、掛からなかったとのこと。この間は、左隣の人もあまり釣れていなかった。
- 裏で船長がエビを撒いていたのだろうか。そのエビがちょうど、自分のところへ流れてきたのだろうか。しかし、ピンポイントで自分のところにだけ流れるのだろうか。そもそもエビを撒いていたのだろうか。
- 入れ掛かりタイムがすぎると、餌取りだけが餌を取っていく。底から9m上が棚となるとときがあった。一発勝負で底に落としたときもあった。
- 仕掛けは船の後方へほんのわずか流れていくが、底潮は動いていない。底から少し上になるよう錘を止めることで、上潮で仕掛けを流し、仕掛けが底付近に来たとき、錘の重さで仕掛けが戻ってくるようにしてみた。
- いずれもさっぱりダメだった。
- 11時20分納竿となった。

【次回の仕掛け】

- 船長が言うように、タイ(大ダイではないタイ)やワラサ・カンパチを釣るには短い仕掛けでよいであろう。
- これまで、前の船長に言われ、長い仕掛けを準備していた。餌が自然に動くようにとのこと。これは、大ダイ狙いなのではないだろうか。特に潮が大きいときは、ハリスは長い方がよいとも言われた。
- 市販仕掛けでは、ハリス150cm3本鉤とハリス100cm3本鉤がある。
- ハリスは短い方が扱いやすい、当たりが分かりやすい。
- 強い風が吹く中、175cmのハリスを扱うことができた。
- 春は150cmで、秋は100cmで、という考え方もできるが…。
- 150cm3本鉤か、100cm3本鉤か迷うところである。